

令和5年度  
保育所の自己評価

株式会社サンフラワー 事業所名：柏サンフラワー保育園

保育所保育方針では「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない」ことが明記されています。これに基づき株式会社サンフラワーでは毎年自己評価を実施しています。評価結果は今後のより良い保育の遂行にいかしていきます。

<評価について>

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

A 大変良い B 良い C 一部検討を要する D 改善を要する

第1章 総則

①保育所保育に関する基本原則

	評価項目	評価
保育所の役割	① 子どもの最善の利益を考慮し最もふさわしい生活の場になっていることを理解している	B
	② 子どもの人格尊重を意識して保育を行っている	B
目標	① 株式会社サンフラワーの保育理念 <sup>注1</sup> や保育目標 <sup>注2</sup> を年度初めに職員で確認している	A
	② 株式会社サンフラワーの保育理念や保育目標を職員や保護者などに見えやすい場所に掲示するとともに、園だよりや配布物を通して周知している	B
保育の方針	① 子どもの一人一人の特性や発達過程に応じ発達の課題に即した援助を行うよう心掛けている	A
	② 子どもの主体的な活動を促し、意欲をもって遊べるような援助を心掛けている	B
環境	① 健康的に過ごせるよう、保育活動の配分に気をつけている	A
社会的責任	① 地域へのおたよりを発行し、保育園を理解してもらうように努めている	D
	② 個人情報適切に扱い、保護者の苦情に対し解決を図るよう努めている	B

②養護に関する基本事項

養護の理念	① 養護と教育を一体的に行うことを意識して保育にあたっている	B
	② 「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解している	A
生命の保持	① 一人一人の健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる	A
	② 生理的欲求が十分に満たされるようにしている	A
情緒の安定	① 子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築くように心がけている	A
	② 自分の思いや意見をはっきり伝えることができるように配慮し、尊重している	A

③保育の評価反省

全体計画作成	① 全体的な計画の作成には、職員が参加している	B
	② 長期的な見通しをもった計画をたて、職員で共有している	A
指導計画作成	① 日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている	B
	② 各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている	B
	③ 日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している	B
	④ (3歳未満児は)一人一人の子どもの発達状況、保育計画、生活状況について作成している	A
	⑤ 子どもが主体的に活動できるよう環境設定している	B
	⑥ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している	A
指導計画展開	① 子どもの実態や状況の変化に応じて、見直しや改善を行っている	C
評価改善	① 園全体としての評価を行い、全職員の共有理解のもと改善に努めている	C

③ 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

資質能力	① 育みたい資質、能力を理解している	B
	② 長期的な見通しをもった計画をたて、年齢ごとに必要な経験の機会を与えている	C

第2章 保育の内容

①乳児保育に関するねらい及び内容

基本的事項・ ねらい及び 内容  保育の実践に 関わる 配慮事項	① 離乳食については、家庭や料理人、栄養士と連携をとりながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている	A
	② 一人一人の生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている	B
	③ 特定の保育士との継続的な関わりが保てるように配慮している	B
	④ 午睡中は体を仰向けにすることを認識して、体温、顔色、呼吸の安全チェックをしている	A
	⑤ 生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせてさまざまなものに触れさせている	A
	⑥ 上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている	C
	⑦ オムツの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め対応している	A
	⑧ 発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている	A
	⑨ 誤飲、転倒など重大事故につながらないように安全環境に配慮している	B

②1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容

健康	① 生活リズムについては、一人一人の子どもの状態に合わせて対応している	A
	② 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている	B
	③ 楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている	A
	④ 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している	B
	⑤ 子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している	A
	⑥ 一人一人の排泄状況に応じた配慮をしている	A
人間関係	① 保育士等との安心したかかわりの中で、園生活を送れるようにしている	A
	② 他の子どもとの関わり方を少しずつ身につけられるように仲立ちをしている	B
	③ 自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるように援助している	B
環境	① 玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合った物を選び使用させている	A
	② 積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している	A
	③ 見る、聞く、触れるなど感覚の働きを豊かにしている	B
言葉	① 楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやり取りができるようにしている	A
	② 絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている	A
表現	① 水、砂、土、紙、粘土などさまざまな素材に触れて楽しませている	B
	② 音楽、リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている	B
	③ 子どもの表現をしっかり受け止め、共感している	A
保育の実施に 関わる 配慮事項	① 体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うことで感染症を予防している	A
	② 事故防止に努めながらさまざまな遊びを取り入れている	C
	③ 進級などで保育士が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している	A

③保育の実施に関して留意すべき事項

保育全般に 関る配慮事項	① 一人一人の子どもの心身の発達及び活動実態等の個人差を踏まえ、気持ちを受け止め援助している	A
	② 子どもが安心感を持ち、生活できるように配慮している	A
	③ 子どもが安心して時間を過ごし、気づきや学びを得ていると感じられている	B
小学校との 連携	① 小学校との意見交換や合同の研究の機会などを設けて情報共有や連携を図っている	-
	② 子どもにおける情報共有に関して保育所児童保育要録を作成している	-
地域社会との 連携	① 地域向けの園だよりで、園の様子や行事などについて地域の人々に見てもらえるようにしている	D
	② ボランティア、体験保育の人々を受け入れている	D

### 【第3章】健康及び安全

#### ①子どもの健康支援

健康発達	① 感染症発生時に、発生状況や感染症予防策について保護者に通知している	A
	② 不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携し対応している	A
健康増進	① 健康診断と歯科検診の結果について保護者や職員に伝達している	A
	② 子どもの健康情報を共有し、子どもの既往歴(アレルギー・熱性けいれん・脱臼壁・喘息など)について 全ての職員に周知するとともに、その発生時の対応を行っている	A
疾病等への対応	① アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し主治医から指示を得て適切な対応を行っている	A
	② アレルギー疾患を持つ子どもに対し栄養士や調理員と連携し個々に合せ対応を行っている	A

#### ②食育の推進

保育所の特性をいかした食育	① 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている	C
	② 乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方などの食事のマナーを伝えている	A
	③ 展示食で年齢に適した食材の量や形状を保護者に知らせている	B
環境整備	① 調理員、栄養士、保護者と連携をもち、個々に合わせた対応を行っている	A
	② 食べ物、飲み物に関して情報開示(献立表、給食だより等)が適正にされている	A
	③ 子どもが安心して飲食できていると感じられている	B
	④ 子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心掛けている	C

#### ③環境及び衛生管理並びに安全管理

環境及び衛生管理	① 園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう配慮している	B
	② 生活の場面にあった保育士の声、音楽など音に配慮している	C
	③ 園内に子どもたちが季節感を味わえるような工夫をしている	A
	④ 子どもが活動しやすいように保育室の温度、湿度、換気、採光などに配慮している	B
事故防止及び安全対策	① ヒヤリハットを共有し事故防止に努めている	B
	② 睡眠、水遊び、食事などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し事故防止に努めている	A
	③ 外部からの侵入に対し、マニュアルに沿った動きがとれる	B

#### ④災害への備え

安全確認	① 消化器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている	B
	② 施設の安全点検を行い、改善している	A
避難への備え	① さまざまな災害を想定した避難訓練を行っている	A
	② 保護者との連携体制や引渡し方法が確認されている	A
連携	① 地域や地域の関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている	C

### 【第4章】子育て支援

#### ①保育所における子育て支援に関する基本事項

支援と留意事項	① 保育士は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	A
	② 保護者が、子育ての悩みや心配ごとを安心して話せる存在になるよう心掛けている	B

#### ②保育所を利用している保護者に対する子育て支援

保護者との相互理解	① 送迎時の対話や連絡帳での情報交換に加え機会を設け相談に応じたり個別面談をしたりしている	B
	② 家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている	B
	③ 「園だより」や「クラスだより」などを定期的に発行している	A
	④ あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている	A

#### ③地域の保護者に対する子育て支援

地域の子育て支援	① 地域における子育て支援を実施し、地域の子育て支援ニーズを把握するように努めている	C
	② 子育て支援の情報提供をしている	C
連携	① 子どもの医療や保険に関する問題について、連絡、相談する外部の関係機関を把握している	B

## 【第5章】職員の資質向上

### ①職員の資質向上に関する基本事項

保育所の職員に求められる専門性	① 相手の立場に立った挨拶、電話、来客対応ができています	A
	② 自己の健康管理ができています	B
	③ 保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密保持について、全職員に周知し守られている	A
	④ 保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し守られている	A
質の向上に向けた組織的な取り組み	① 日ごろから職員間で気持ちの良い挨拶や声掛けができています	A
	② 業務遂行にあたって正確で迅速な、報告・連絡・相談を実施しています	B
	③ 公平に人の話を聞き、話しができ、正確に伝達できています	B
	④ 問題意識を共有しながら職員間で共通理解し、協力しています	B

### ②職員の研修等

研修の活用	① 園内研修を行っている	B
	② 職員について適切な研修機会の確保を行っている	B

注1) 株式会社サンフラワー 法人理念

安心・安全な環境のもと、子ども一人ひとりに寄り添い、心身ともに健やかな成長を育みます。

注2) 株式会社サンフラワー 保育目標

- ・興味や関心を持ち、意欲的に取り組む気持ちを大切にします。
- ・人の気持ちに寄り添える思いやりの気持ちを大切にします。
- ・自分の意見を持ち、自己表現を大切にします。
- ・健康で明るく元気に活動できるように保護者とともに取り組みます。
- ・基本的な生活習慣を身につけるよう取り組みます。

#### 【園全体の評価】

①令和5年度は新規開園の年であったが、職員(特に正規保育士)の産休等の入れ替わりが多く、その都度、保育内容(柏サンフラワー保育園の保育への考え方➡保育観)や職員同士の連携を図る事を最優先となってしまう、保育の発展が進めることが出来なかった。その中でも、子どもの姿を通して職員同士の連携(信頼関係)を確かなものにする為、職員同士が保育について意見を出す機会を毎日設け、少しずつであるが意見を述べ、相手に質問するなどの変化が見られ始めてきている。それぞれの保育観を知り・認め、柏サンフラワー保育園としての子どものへ関わり方や保育内容の理解の共有が年度末によくでき始めた。

②地域に向けての発信を行うことが出来ていなかった。又、後半の食育はこなす事が優先となってしまうっており、子ども達の生活に根付いた連動性のあるものとは言えない内容であった。

#### 【来年度の課題】

- ①職員一人ひとりの役割の明確化を行い、責任感と達成感を感じてもらい、柏サンフラワー保育園の運営を担う重要な人物であることを認識してもらえ。そのために、日頃から職員との言葉のコミュニケーションや面談を通して、自信を持っていけるよう職員をよく観察し、必要な決断、アドバイス等が行う。
- ②職員の共通認識の更なる向上を図りつつ、保育内容の展開や発想の実現化を図る。
- ③選ばれる保育園、生き残る保育園として、子ども達が楽しく遊びながら学べる保育の考え方を、職員に浸透させていく。例えば「音育」楽しく体を動かしながら、表現力や聞く力や記憶力を身に付けるなど。一つの保育(現在未決定)の効果を共通認識した上で取り組み、最終的には外部(地域)にも広げられるように職員の能力アップを図る。
- ④食育は全年齢がそれぞれの発達を考慮し、どのように参加できるのか、又どの内容を行いたいのかを計画を立て実行していく。